

中央市立田富小学校

令和元年度 具体目標と評価基準と主な取り組み

対象	評価項目 (今年度の重点項目)	評価 担当	具体目標	評価基準(評価方法と指標)	主な取り組み	
総合評価	(前表に掲載)					
社会を 生き抜く (生)	1	自立の基礎 を増う	渡邊 教頭 古屋	●目標をもって学校生活を送り、振り返りにより自己の成長や新たな目標に気づく子どもの育成。 ●基本的な生活習慣を身に付けた子どもの育成。 ●自分の命を守ることができる子どもの育成。 ●みんなのために働くことのできる子どもの育成。	○学校評価の児童アンケート「あなたは、目標をもって学校生活を送っていますか。」の項目に対し、「そう思う」と回答する児童を50%以上にする。 ○PTAからのアンケートとして各家庭にアンケートを取り、2時間以上ゲームをしている子を平日は15%以下に、休日は35%以下にする。また、ネットにおいても1時間以上している子を平日15%以下、休日は40%以下にする。 ○自転車乗車時のヘルメットの装着率を30%以上にする。(昨年度末15%) ○学校評価の児童アンケート「あなたは校内をきれいにしようと思い込んでいますか」の項目に対し、「そう思う」と回答する児童を95%以上にする。 ○「あなたは学級や児童会の活動に一生懸命取り組んでいますか」の項目に対し、「そう思う」と回答する児童を95%以上にする。	・家庭生活や一日の学校生活を振り返り、つなげる日記を書く。 内容例:①授業も含めた学校生活で感じたことや気づいたこと②習い事も含めた家庭生活で感じたことや気づいたこと③困っていることや悩んでいること④本や新聞を読んだりテレビを見たりして、感動したこと、疑問に思ったこと⑤登下校中に気付いたこと⑥インタビューして分かったこと、感じたこと等 ・全校集会や学校行事等において、活動前にゴールを確認し、活動後に評価をさせる。 ・PTAのノーゲーム・ノーテレビの日などの取り組みに合わせ、家庭にお便りを出したり、学級指導を行ったりする。また、個別懇談で保護者への啓発を行い、家庭での使用時間を記入をしてもらう。 ・個別懇談でヘルメットの所持について保護者に確認し、購入及び着用について依頼する。 ・児童会の「静かに・すみずみまで・ていねいに」運動に合わせた指導を行う。 ・すべての学級で掃除と配膳の田富小スタンダードに沿った指導を行う。 ・学級の係活動や委員会活動では、児童がどんな仕事や活動が必要かを考え、実行し、反省、改善を行うように指導する。 ・4年生による新入生アシスト活動を行う。
	2	聞いて考え、語り合う子を育てる	野中 越水	●話している人を見て、考えながら最後まで聞くことができる子どもの育成。 ●聞いて考えたことを語り合い、学びを広げたり深めたりすることができる子どもの育成。	○2学期終了時まで、すべての児童のあゆみの評価が◎○になるようにする。 ○学校評価の児童アンケート「あなたは、授業中、友達の話聞いて自分の考えをよりよくすることができていますか。」の項目に対し、すべての児童が「そう思う」と答えられるようにする。	・各クラスに聞き方名人になるための聞き方のルールを掲示し、児童に常に意識させるとともに振り返りをさせる。 ・教師が聞き手のモデルとなる。 ・ホワイトボードを使って、グループで話し合ったことをまとめ、発表する活動を行う。 ・つなげる日記ややってみるじゃんノートの記述を話し合いの材料として活用する。
	3	読む子を育てる	鷹野 笹本 青柳	●本が好きな子どもの育成。 ●音読したり暗唱したりすることを楽しむ子どもの育成。	○うちどくカレンダーに半分以上○がつく児童を、各学級60%以上にする。 ○好きな詩や物語の一節を暗唱できる児童を、各学級80%以上にする。	・図書委員会の活動を通して、読書の楽しさを伝えたり、多読を奨励したりする。 ・うちどくカレンダーの取り組みを継続して、子どもの読書生活に対する保護者の関心を高める。 ・うちどくカレンダーに保護者と担任チェック欄を設け、一週間に一度ほどのペースで確認し、声かけをする。 ・音読カードを活用して家庭でも音読に取り組みせ、音読への意欲と技能の向上を目指す。 ・読み聞かせやリズムのよい名詩名文を声に出して読む活動を、授業や朝活の時間に組み込む。 ・音読の成果を発表できる機会を設ける。
確かな 学力 (生)	4	確かな学力を支える授業づくり	太田 古屋 前野	●毎時間ごとのめあての達成に向けて、自ら問いをもち、仲間とともに学び合う授業の実施。	○学校評価アンケート(児童)の中にある評価項目「勉強する力が伸びたなあ」の問いを1学期、及び2学期の末に実施し、「そう思う」(肯定回答)の割合を学期が進むにつれて上昇させていく。また、最終的には、昨年度の結果(89%)以上にする。	・各種学力検査の分析と支援が必要な児童の把握により、共通意識をもち組織として支援を行う。 ・担任が板書記録ノートを作成し、自分の授業を振り返り、授業改善に取り組む。 ・田富小スタンダードに沿った授業の実施。今年度は、特に既習事項やこれまでの経験を生かした課題設定や自力解決に力を入れる。 ・校内研究のテーマ「自ら問いをもち、仲間とともに学び合う子どもの育成」を実現に向け、一人一実践に取り組む。
	5	自ら学ぶ子を育てる	高橋 降矢 小野	●進んで家庭学習に取り組む子どもの育成。	○2学期の『家庭学習力のようす』において、「毎日学習している」「ほぼ毎日学習している」と回答する児童を80%以上にする。(昨年全校平均76%、低学年77.4%、高学年74.5%) ○学期末の「やってみるじゃんノート」の振り返りにおいて、目標が達成できた児童を80%以上にする。	・児童と保護者の家庭学習に対する意識を高めるために、毎学期「家庭学習力のようす」のアンケートに取り組む。個別懇談の資料として活用する。 ・やってみるじゃんだよりでよい内容のノートを紹介し、内容の充実を図る。 ・児童に「やってみるじゃんノート」への取り組み目標を学期ごとに決めさせ、学期終わりに目標を達成できたか振り返らせる。 ・自由研究相談会を実施する。
豊かな心 (信) (命)	6	心の居場所と支え合う学校生活	三森 小野 山田	●安心して学校生活を送り、気持ちよく活動できる学校作りと支援体制の確立。	○学校評価項目の「学校が楽しいか」において、否定的な回答をする子の割合を8%未満にする。 ○「何かあったとき、先生方に話しているか」において、肯定的な回答をする児童を80%以上にする。	・「学校生活は楽しいか」のアンケート及びQUTテストの結果を分析し、問題行動の未然防止・早期対応・早期解決を図る。 ・学級活動及び朝活などで、互いのよさを認め合う活動を行う。 ・共感的理解に基づき、子どもに考えさせ、気付かせる指導を行う。 ・子どもと話したり遊んだりすることにより、きずなを深める。 ・校内委員会、生徒指導部会により情報を共有し、全教職員による徹底した指導と適切な支援を行う。
	7	地域とつながるあいさつの活動	工藤 高野	●学校・家庭・地域で、あいさつができる子どもの育成	○学校評価項目の児童アンケート「あなたのお子さんは、あいさつがよくできていると思いますか」という項目の回答で、否定的な回答(あまりそう思わない・そう思わない)を今年度14%以下にする。(昨年度15.8%)	・どのようなあいさつを目指していくのか各学級や代表委員会で話し合い、あいさつへの意識を高める。 ・児童会本部、6年生、5年生と1つ順にあいさつ運動に取り組んでいく。まずは上級生がしっかりとあいさつをできるように、全校へと広げていく。 ・元気のよいあいさつができていた児童の名前を放送し、モデルをすすとともに、意欲付けをする。 ・「あいさつカレンダー」を作成し、家庭や地域でのあいさつに視点を広げさせる。
	8	共生の教育	清水 笹本 落合	●多様な他者を知り、尊重し、折り合いをつけながら目標に向かって共に学び共に活動できる子どもの育成。	○学校評価調査の児童の項目の「誰とでも仲良く協力して活動していますか」の項目に、4・3(そう思う・ややそう思う)と答える児童の割合を90%以上にする。	・フレンドシップ委員会の活動を通して外国の言葉、文化、自然などに親しみがもてるように働きかける。 ①ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、タイ語のあいさつカードを各クラスに配布し、朝の会であいさつをするように働きかける。 ②国旗や民族衣装、クイズなどを取り入れたフレンドシップ集会を行う。 ・校内支援委員会で確認された児童だけでなく、終礼や職員会議の知ってもらい子で挙がってきた児童について、指導・支援の共通理解を職員全体で図り、指導・支援の見直しを必要に応じて行う。 ・学級活動及び朝活などで、互いのよさを認め合う活動を行う。
健やかな体 (命)	9	体力向上	小坂 武井	●自ら運動に親しみ、体力の向上に止める子どもの育成。	○走力の運動能力を高め、50m走で目標タイム(全国平均10月)以上となる児童を7割以上にする。	・授業の中に、走の動きを取り入れた運動を行う。 ・学級学年で児童が外遊びを計画し、実施する。※のびのびタイムの代わり ・体育委員会を中心に企画、実施するスポーツ大会で、「走の動き」に関わる運動遊びを行う。
信頼される学校 (信)	10	積極的な情報発信と連携	校長 佐久間	●保護者や地域に対する積極的な情報発信の実施。	○学校評価の保護者アンケートの「学校からの情報発信や連携がよく図られている」という問いに対して、肯定的な回答が引き続き95%以上となるようにする。 ○学校評価の保護者アンケートの「あなたは、学校の情報を得るためにホームページやブログを、今年度閲覧しましたか。」という問いに対して、肯定的な回答を80%以上にする。	・連絡帳や電話を通して保護者との綿密に連絡を取り、迅速かつ丁寧な対応を行う。特に、よいことを伝えることを心掛ける。 ・1学期に家庭訪問と個別懇談を行い、保護者のと連携を強める。 ・学校ホームページにブログに加え、学校だよりを掲載する。 ・学校ホームページに各種提出用紙の書式や学校経営案及びいじめ防止基本方針などを掲載し、保護者が閲覧できるようにする。